



- 2)比較宗教学：全生活・全生涯、生の形態において諸宗教を比較すること
- 6.「.....を尽くして」 全体性・絶対性 「究極性」  
 日常的コミットメント 宗教的コミットメント(相対的、部分的、予備的)  
 極限值(質的飛躍)
- 7.「あなたの神である主」 信仰対象と自己同一性との相関  
 信仰対象：様々な行為の最終的な目的  
 「結局何のためか」  
 cf:予備的関心事  
 自己同一性：様々な行為を統合する主体  
 「結局わたしは何者か」  
 cf:役割(ペルソナ)
- 8.行為説明の二つの方向(目的の方向/主体の方向)の相関性  
 自己同一性の説明と「神」との結びつき
- 9.宗教は日常性の無限の延長線上にある(極限值)  
 自己同一性の問いがぎりぎり問題化する地点(限界状況)で、もっと鮮明になる
- 10.まとめ：  
 信仰は、人間の人格全体において行われる究極的関心であり、信仰者の自己同一性を規定しているものである。
- 11.聖書の宗教と日本の宗教伝統の比較(日本の宗教伝統の問題性)  
 狭義の宗教と世俗との区別の曖昧さ 宗教理解が歪む、宗教への無理解

#### < 文 献 >

- 芦名定道 『ティリッヒと現代宗教論』(北樹出版)  
 ティリッヒ 『信仰の本質と動態』(新教出版社)  
 (『ティリッヒ著作集 第6巻』白水社)